

Ex 1621A

Doc 5170

口供書

中 上 海

一九四二年(昭和十七年)五月廿日

私、名前ハ「ジョー・オー・エニ・エドワード」トイヒ英軍通信
隊ニ寄進士官デアル。私ハ北マライ方面英軍砲兵隊中
一五五野戦聯隊付、通信隊ノ指揮ニ与ツテ中タ下士官デ
アル。私ハ一九四二年(昭和十七年)二月十五日「シンガポール」
ヲ要塞、引渡、時捕虜トナツタ

一九四二年(昭和十七年)十月私ハ英軍砲兵隊中ハノ対
戦車聯隊、英軍砲兵隊中一五五野戦聯隊、英軍
砲兵隊中五野戦聯隊及ビ英軍通信隊中十一(印度)
師団、約千二百名、兵隊ト共ニ「シンガポール」渡止場デ
「イグランド」丸ニ乗セラレタ。私達ハ日本人、要求ニテ未
タ所謂「軽」イ仕事ニハ必ズニセ直タデナリ連中、一團デ
アツタ苦デアル。「イグランド」丸ハ五千トニ、古イ貨物
船デ製作者、記録板ニヨレバ一九〇五年ニ建造サ
レタモデアツタソレハ不潔デタタ私ガ入レラ
レテ中タ、船艙ハ明ラカニ割ニ馬カ牛コ運ブニ使ハ
レタモノデアツタ壁ヤ床ニハ乾イタ排泄物ガソイデ
中タ。二日間私達ハ「シンガポール」港ニ碇泊ニテ中タ。私
ハ「ニヤード」ニ「ニヤード」位ノ広サ、船艙ニ二五七人
ノ兵士ト共ニ詰メ込メテ中タ。我々、食物ハ表面ニ少
量、野菜ガ浮イテ中ル水ゾボイオ汁(約半バイ)主
ト幾ラカ、即飯ヲ一日ニ朝ト晩ニ回デ晝ハ御飯ダ
ケノボシノ寸シタ食ヲカ支給サレタデアル。唾ツ
ノ飲料水ハ塩カラタテ私ニ何ダカ貯溜ニタ海水、

Doc 5170

NO 2

様ニ思ハシタ。喉が鳴イテ気が狂ヒサウタッタ。私達ハ
船倉ニ鹽床カシテ井テ水槽マデ行クコトが出来
ナカッタ。便所、設備ハビドイセーデアッタ。最初ハ土
匠名ニタッタ四ツカ無ク後ニハツニ増サレタ。ソレハ木
造リ、槽デインモ排送機ガ一杯デ不潔ナ状態ニアリ
蠅ガタカサナタ。兵隊達ハ一度ニタッタ一人宛ニカ便
所ニユコトガ許サレズ下痢ト赤痢ガハヤツテサタ、
デ病氣ニカシテサタ兵隊ニトシテコトハ本當ニ苦
痛デアッタ。洗濯、設備ハク航海ガハジマツテカ
ラ凡ソ一日ニ二時間位甲板ヘ上ルコトヲ許サレタ。人
兵士ガコノ旅行中ビドイ状態ノタメニ事実死ニデシマ
シタ。

台湾ノ基隆ニツイテカラ私達ニ五五野戰騎隊
トハ討戰車聯隊ヨリ、分遣隊ハ汽車ニ乗セラシ端
牙ニ向ツタカソコデ雨中荒シタ道路ヲ金瓜石ニ五
時間、孤ニロニ行進シタ。私達ハ、道程ノ途中
住民ノ嘲笑ノ下ニ曝サレ警戒兵隊ヲ打タシ蹴ラシテ
兵隊達ハ各伍ニ向テ無理ニ歩ヲ続ケサセラシ私ノ通
信分隊ノ仲間ニトグリヌスハ半バ運ニデイカシネバ
エラナカッタ。彼ハ次ノ日ニ死ニタリシカラ、ニヶ月間ニモ
ソト多クノ兵隊達ガ死ニタリシワテ、十人ハコノ行進ガ
直接ノ原因デ死ニタリタト私ハ主張スル。金瓜石ノ收
容所デハ住居ハヨカッタが待遇ハビドカッタ。毎日毎日
殴打ト残酷ナ行序ノ連続デ、總テ、人がナシトシ
タコトカラ打タシタ。私自身モ二日間ニ九回モ殴ラシタ。

Doc 5170

No. 3

私達、收容所ニハシ、期間中、嫌悪政策、干渉アルコト
グタ。私ハ台湾、スベテ、收容所カラ来タ人々ニ会ツタ
ガコ、政策バドコ、收容所デモヤツタ、ニ。

私達ハ一九四三年(昭和十七年)十二月二十二日カラ金瓜石
銅鉱山デハシテ開始。鉱山ノ中デ、状態ハ見ナケレハ
信ジラレナイ程モ、デアツタ。採鉱所ハ我慢デナナイ
程暑ク或場所デハタツタ三分同ミカ働イ、中ラレズ
全般支柱ナク危キ死、畏デアツタ。何年デモナニ突破ガ掛
テラ私達ノアセテシ燈ハ吹キ消サレテシマツタ持ツエト
テ許サレテ中ナカッタデコ、タニ多クノ事故起ツタ。

此、鉱山ニ働イテナタ人、全般傷痕ヲ持ツテ中ル云
ツテモ過言デナイ。私モ数回怪我ヲニタ。或時、足ガ出、
クツリタ下テリ今デモソノ痕ガ残ツテ中ル。靴ハ酸味、
アト水ガ低イ天井カラ滴リ斜水溝ト地面、穴ハムキタニ
テ多クノ人ガ中(落チ)ニ二人ハ背骨ヲ折リ他ニモ中
足ヲ折ツタ者ガ多ク。

私達、身丈度ハ最初ハ相当ニヨカツタ厚紙、鉱山帽。
アセナレシ燈ニゴム、地下足袋(ゴム靴)デアツタ。足袋ハ約
一月位ハモツタ。帽子ハ酸味ノアル木ニツカテ思フ駄目ニ
ツタ。ソニテドナモ駄目ニツテカラ笑月无代リが無カツタ。私
達ハソフト帽カ或ハ全然何モ被ラナイデ足ハ踏ミカ或ハ
木ヲツマキツタマデ、桶カサレタ。私達ハ採鉱所ニイクニ
六時ニ收容所ヲ出テ行進ニ頂上ヲコエテ山ノ向側ヲ
約ハ二三段モアル階段ヲ降り約二マイル半、危険ナ地
下道(時々或部分デハ膝マデ水ガ出テ中ル)ヲ又ケノシカ

Doc 5170

岩タラシ支柱ナキ狭イ窪ニテ地下道カラ更ニ入リ、
階段ヲ降リテ仕事場ニ行クデシタ。私達ハ是レ九時
ニ始メ晝食ニハ一時間^{（休憩）}アリテ^{（休憩）}イ野草木ノ芽ヲ食ベテ
後一時カラ午後三時迄働キ又ア、惣ロニ登リ道ヲ收容
所ニテ登タデアル。私達ハ取調ベラシ極ニサシタ後六
時頃解散ニツタ。ソレカラ私達ハ次、朝、用器ニニツテ
油ヲ、シタリ洗濯ヲニテタ食ヲ食ヘヌベテ子カツタ。夕食
ハ半バ、イソト、水ヲ、イ野草木ト即飯デアル
タ。ソレカラ八時ニ夜、點呼ガアリ九時ニ消燈サシタ。一九四
四年昭和十九年、終、頃、新ニ地下道カ外、階段ヲ避
ケテ收容所カラ掘リ下テラシテカラ、又等、狀、態、ハヨクナリ
私達ハ午後四時半迄ニ帰（シ）ヨウニナツタ。

ナ地下道ニハ悪意ヲ藏スルガ如キモノガアリ上側ト底
トニ銅鉄ノ扉ガアツタ。台湾ヘキテカラ私達ハ夫ニアリカ
兵ガ侵寇ニタラシ、二回ジコメラシテ殺サレル苦デアツタ
トヲ知ツタ。鉦山カラ破壊ガコノ目的、タメニ取ツテ保管
サレテアツタノデアル。鉦山中デ私達ガ充分ニ生イテ
イ働カカツタリ言ハルタ仕事ヲ完成ニカツタリヌルト
モウキマツタヨウニドイ段打ラサシタ。三時ニ皆並バサ
シテ仕事ヲ終ヘサカツタ者ハ段ラシタ。彼等ハ天井ニツ
イテアル鉄管ヲ頭ト上ニ支ヘサセラシ衣類ヲバ取テ
テ段ラシタ。私達ハハミ、ノ約ニヌトデ約一五イニ
ノ厚カ、柄ヲ鞭ウタシタコノ体罰ハ殘忍デ金ヲ不法ニ
セノダタ。命セラシタ大量、ハ假令私達ガ健康
デアルモ不可能ナ程デアツタ。私達、健康状態デ

No. 4

Doc 5170

ハソレハ身体的ニ不可能ナリデアッタ 私自身多ク
然忍テ殺打ヲ見マニテ自分ヲ殺ラシタコトガアル 和
政ウシテ氣絶ニ地面ニ蹴飛バサシタ人々ヲ見タコトガアル
私ニ度頭ヲハミ一ノ柄ヲ回政ウシタコト殺打ハ非常ニ
ヒドクテ私ハ地面ニウチ倒サレ一時目が眩ニテニミタカ
ハ今更ニドウニテソニエトニシタカワカズナリコソ
政打ハベテ 鋤山ニヤトハニキタ日本ノ人ト台灣ニ
夫長ヨリナサシタデアル

ソコデノ取扱ハ長イ徒歩ト登攀氣温ノ変化悪ク
少イ食糧ハ總テ私達ノ間ニ病氣ノ原因トナリタリ食糧
乏シテハ七名モ死ニタ。八名ハ鋤山中デ殺サレ一人ハ
斜水溝ノ中ニ落テタタタ骨ヲ折リテ其ノ後死ニタ
一ノ鋤山ノタニ死ニ不具トナリタ人、實數ハ何將ニ經
ツテモ利用シナイデアラウ。コノ不潔ト塵ト埃ト鋤山
ノ重労働ガ直接ノ原因トナリ英王デ今尚多クノ命死ニ
シアルトイフテモ過言デナカラウ。結核患者モ多ク
タニ一ノ為多ク人々が今更ニ病サレテ死ニ
デアル

一送テ藥、類ハス一ツト非常ニ足りナカッタソニ一日
本軍カラ支給サレタセハ多クノ病人ニ命ツニハ金
不充分デアッタ。捕虜トナリテサケ間ニアリカ、赤十字
カラ藥、供給ハタタニ度ニカサカッタ。藥ガ欠乏ニ
收容所ノ要ス將校ガ自分タデ藥ヲ買ハツトイフ
ヲ申出テ許可サレタガ、ソノ藥ハ非常ニ高價
タッタ

No 5

Doc 5170

日本軍、衛生隊員ハ殘忍テ又病人ニ無関ニタリ。假
フ、氣ツカッタハ只、倒シテ病院患者ニシテド、位
長ク働ケルカトイフ事タノ様デアツ。鉱山内ニハ應
急手当、設備モ医療看護人モナク、一九四四年(昭和
十九年)四月ニツキ初メ二人、医療看護人が不足分
ト支度ヲシテ凡ソ二百人モナク労働者、一団ニ加ツテ未
タ。ソレ迄ハ傷ヲシタ人、鉱山ノ中ニ残サシテ折シタテ足
ハ、時ニハ数時間モ又或時ハ三時ニ作業隊、帰ル時マ
デ放ツテ置カレタ。

スベテコノ殴打ヤ作業状態ハ二人、收容所長ニ知ラセ
テ居リ台湾ニ於ケル最高軍事當局者達ニ知ラセテ
ナクニ置キタイ。長久間、鉱山内ニ働ケル病氣ノ人々ヲ
他、收容所ノ健康ナモノト交代サセルトイフ政策デアツ
タ。ソレヲ台湾内ニ居タ捕虜達ハ全部此、銅山、狀態
ハ知ツテナル。私ハ台湾内、他、スベテ、收容所カミ来タセ、
ト話スコトガ出来タ。ドコ、收容所デモ状況ハ悪カッタ。オ三
屏東收容所ハクワリヤ地帯ナリ熱病ノタタタノ
人死タ。

一九四五年(昭和二十年)五月米軍上陸、廣ガ非常
ニ切迫シテ中タデ、銅山ハ閉鎖サレ、松達、收容所ハ三
班ニ別レテ「コク」ハ移轉ニタ。ソレハ台北カラ余リ遠ク
ナク「ミント」ニ於テハ鐵道、終点カラ入理森林、直リ
行タ所デアツ。ココ、状態ニモヒドカ。食物ハ最低
一日ニ二、三グラムノ干米トナリ多ク諸デアツ。

No. 6

Doc. 5170

コノ收容所ヲ建テル爲、總テモ、即チ木材、屋根
ニスル竹ヤ草ノ周圍ノ密林カラ人カラ取ラネバナラナカ
タ。食糧材料ノ、他必需品、ア、ハミル、通路ヲ最
相手重態ニツテサタ病人ニヨツテ運バレネバナラナカ
私達ハ最大限度ニ圧迫サレ日ノ出カラ日ノ入リマデ働キ
苦ミテ打タレ蹴ラレテ一定ノ日マデニソノ收容所ヲ建
テ終ルタメニ働カサタ。ソノ收容所(カトセト屋タテ)
ガ建テ終ルト何干トイフ甘言ヲ耕作スルトイフ狂ヒシ
タ計画ガ始メラシタ。巨大ノ地域ヲ又或日時マデニ開墾シ
植附ケナケレバナラナカタ。ソノ時日本ニ取ツテ戦争ガ不
利ニ進展シ、アリ爆撃モヒドクナリ一般ノ食糧不足、
タ私達ノ警戒兵達ノ態度ハ毎日取テ反抗的ニシ
タ。收容所ノ將校生ニ援助サレ弱サニ毎日彼等ハ
私達ヲ段リ虐待シタ。アーデルスザランド、イラターズ、
フリニ伍長ノ頭ヲ余リヒドク鎌、柄ヲ段ラシタテ気が
狂ツテニックス、收容所生活ノ終ルマデニコノ過半数ノ
人ハヒドイ待遇ノタメガヘニナツテサタ。コノデニ人死ニ
皆病氣ヲ目ガヘッタ。終リニ私ノ目方ハ平常トス
ニホドアルニセスト、四ホドニナツタ。

私達ハ九四五年(昭和二十年)八月廿七日ニ「コク」ニ出
テ台北ニ向ツタ。戦争ハ終ツタガ病人ヲ運ブ用意ハサ
レナカタ。私達ハ自分ガ彼等ヲ竹ノ擔架ニセテ運バネ
バナラナカタ。コノ焼キツクヨウ十日ノ中ヲサケタ人々ヲ
運テ密林ニ下ル現ニコノ旅行ハ悪夢デアッタ。コノ旅

Doc 5170

行、タメ又二人が死ニダ。彼等ハ、折山へ到着ニ夕日ニ至リ
タ、テアル。此、所ニロニ旅ハ彼等、死ヲ早メタ、テアル。
八月廿六日 赤十字供給品ノ空中投下ノタメ三人が死ニ
五人重傷十六人軽傷ヲ出シタノガ最後、辛イ苦ニシ、
アタ、九月五日ニ私、他、連中ト共ニアメリカ海軍ニ敗レシ
マシ、連シテ一九四五年（昭和二十年）十一月ニカ、
トロ、私ノ家ヘ帰ヘッタ、テアル。

私ハ死ニシタ友達及ビ生キテ井ル戦友達ニ代ツテ石
島行ニ責任アル人々が裁判サレテ此ノ様ナ罪ガ再
人間ニ対シテ行ハレテハナラナイト他ノ人ニ訓戒トナシ
ヨウテ罰トナシコトヲ辨ヘルモ、テアル。